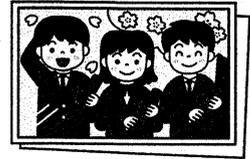
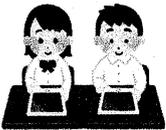


3月食育だより



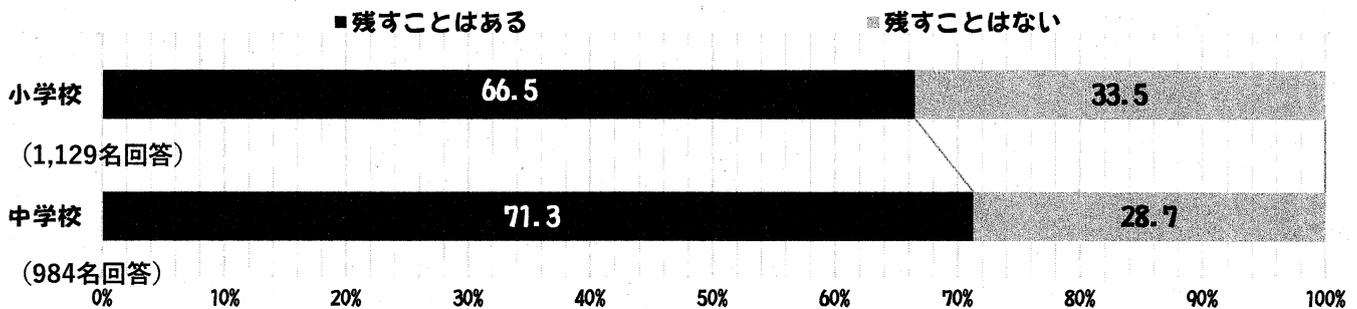
まだ寒さの残る日はあるものの、吹く風に春の到来を感じる季節となりました。この1年で、どの子ども心身ともに大きく成長し、一段とたくましくなった様子がうかがえます。日々の給食や食育を通して、そのサポートができていたらうれしいです。今月は、卒業や進級を控えた皆さんへ、応援やお祝いの気持ちを込めた給食を提供しますので、楽しみにしてください。



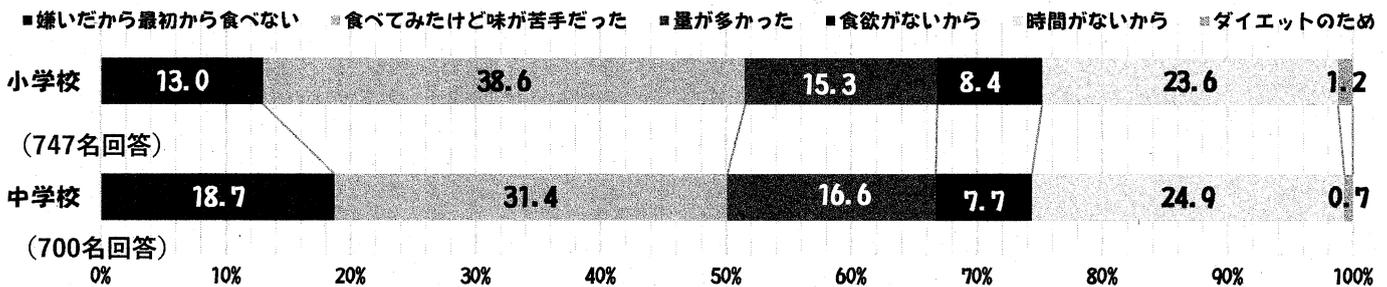
「学校給食・食生活に関するアンケート調査」を実施しました。

昨年12月に市内小学校5・6年生と中学校1・2年生を対象にアンケート調査を実施しました。結果について一部抜粋します。

1.給食を残すことはありますか(%)



2.給食を残すことが「ある」と答えた人の理由(%)



●給食の食べ残しとその理由について●

1.給食を残すことが「ある」と回答した児童は66.5%、生徒は71.3%と中学生の方が若干高い傾向でした。昨年に比べると小学生の値は2.9%減っていますが、中学生は2.7%増えた結果でした。様々な要因が考えられますが、その日の気候や自身の体調、気分、時間的なことも関係があるのではと推測されます。しかし特に中学生は活動量も多いためしっかり食べてほしいところであり、2.給食を残す理由では、「食べてみたけど味が苦手だった」という回答が小中ともに最も多く、小学生は38.6%、中学生は31.4%でした。苦手意識をなくすためにも、そして、小中一貫の課題として「苦手なものでも一口は食べる」という指導を今後も継続していきたいと考えています。3.2番目に多かったのは小中ともに「時間がないから」で小学生は23.6%、中学生は24.9%でした。給食時間は限られた時間の中で、準備、喫食、後片付けを行わなくてはならず、できるだけ喫食時間を確保するように配膳等の指導を行っていますが限界を感じることもあり、給食時間の設定の検討を働きかけていきたいと考えています。4.3番目の理由として小学生は「量が多かったから」15.3%、中学生は「嫌だから最初から食べない」(18.7%)でした。給食時間や、食育授業を通して、自分の体のことを考えて食事をすることの重要性や必要な栄養量について指導を継続していきたいと考えています。

ご卒業おめでとうございます

友達や先生方と過ごした給食時間は、学校生活のかけがえのない思い出の一つとなっていることでしょう。給食が届くまでにはたくさんの人が関わっていて、皆さんを大切に思う気持ちが詰まっています。これから先、困難にぶつかることがあったら、ぜひ給食のことを思い出してください。皆さんが元気で活躍できるようにと、いつまでも応援しています。

